

エコチル調査の取組状況

Progress in Japan Environment and Children's Study

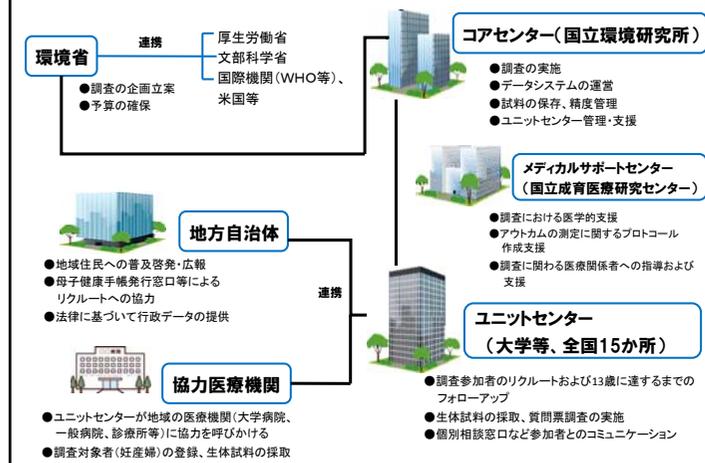
エコチル調査コアセンター センター長 佐藤 洋

Hiroshi Satoh, MD, PhD

Director, National Centre for Japan Environment and Children's Study

National Institute for Environmental Studies

実施体制



子どもの健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)とは

● 調査目的

子どもの健康に与える環境要因を解明

中心仮説・・・「胎児期から小児期にかけての化学物質曝露が、子どもの健康に大きな影響を与えているのではないか？」

● 調査方法・規模

全国で「10万組の親子」を対象とした出生コホート調査

● 調査期間

平成23年1月より3年間で参加者募集(平成23年8月1日出産予定の妊婦さん)。

13年間追跡調査。

● 期待される成果

- ① 小児の健康に影響を与える環境要因の解明
- ② 小児の脆弱性を考慮したリスク管理体制の構築
- ③ 次世代の子どもの健やかに育つ環境の実現
- ④ ライフサイエンス分野の国際競争力の確保



エコチル調査のロードマップ



エコチル調査の対象地域

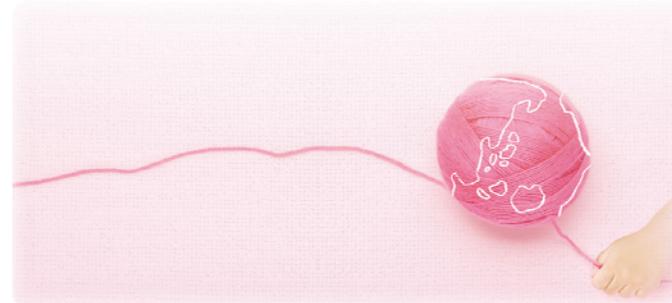


全国15のユニットセンター約300の協力医療機関

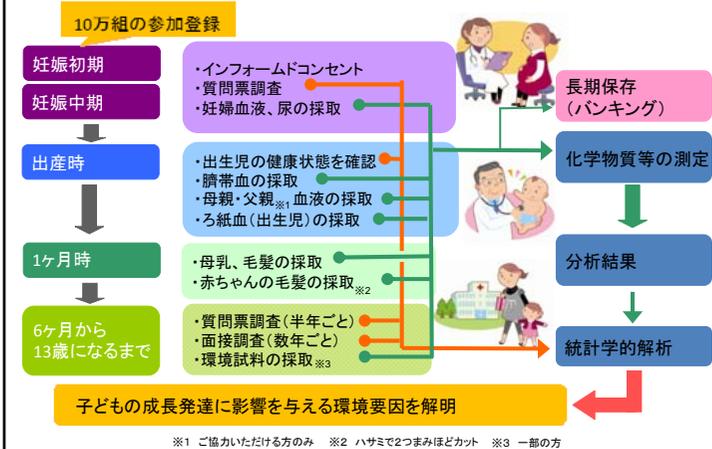


エコチル調査の進捗

これまでの母親(妊婦)の血液検査結果を集計してみると

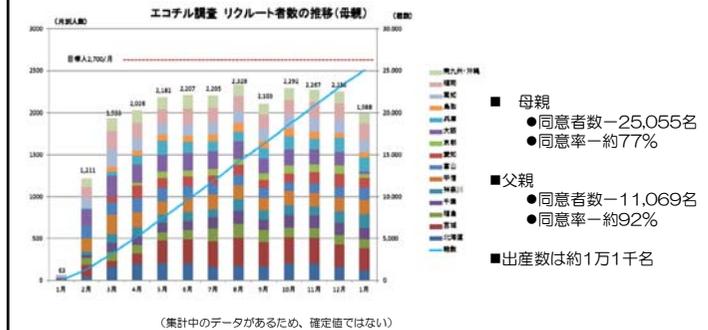


調査の内容



たくさんのお母さん方が参加している

参加しているお母さんの数 **25,055人** (平成24年1月31日現在)



エコチル調査の広報活動



広報活動事例（環境省）



ビズママ (2011年冬号)



初めてのたまごクラブ (2012年冬号)



初めてのたまごクラブ (2011年春号)

雑誌掲載

広報活動事例（コアセンター）

エコチル調査だより



エコチル調査だよりVol.1



エコチル調査だよりVol.2

広報活動事例（環境省）



サポーター登録ページ



(野口 健さん) (北野 大先生) (根本 美緒さん) (日野原 重明先生)
(千堂あきほさん) (ジャガー横田さん) (鴻上 久美子さん)

サポーター代表



メールマガジン

広報活動事例（ユニットセンター）

福馬ユニットセンター
北海道ユニットセンター
愛知ユニットセンター

福馬ユニットセンター
富山ユニットセンター

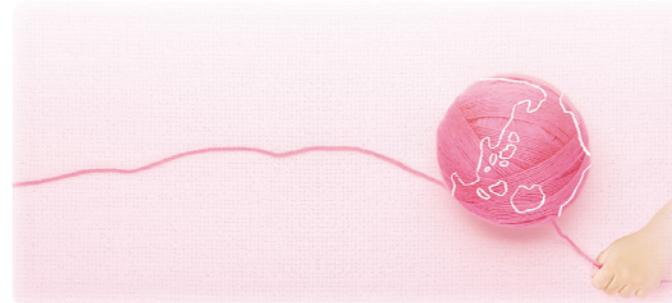
ニュースレター・冊子等

ラッピングバス

神奈川ユニットセンター-駅広告
兵庫ユニットセンター-CM

駅広告・CM

エコチル調査の追加調査



広報活動事例（ユニットセンター）

宮城ユニットセンター-ムックとガチャピンが幼稚園を訪問

甲信ユニットセンター-出産記念セミナー

千葉ユニットセンター-ボディコンディショニング講習会

福岡ユニットセンター(産業医科大学サブユニットセンター)-すくすく子育てフェスタ

高知ユニットセンター-1周年記念イベント(告知チラシ)

ユニットセンターHP

京都ユニットセンター

大阪ユニットセンター

兵庫ユニットセンター

福岡ユニットセンター(九州大学サブユニットセンター)

南九州・沖縄ユニットセンター

イベント

追加調査の申請状況

追加調査という枠組みで、各ユニットセンターが本調査を研究プラットフォームとして、独自のアイデアに基づく調査研究を企画することが可能

2012/2/16 現在

ユニットセンター	事前審査申請数	事前審査結果内訳						環境省承認課題	開始課題
		承認	条件付承認	不承認	非該当	取り下げ	審査中		
1 北海道	11	2	5		4			0	0
2 宮城	23	1	19			3		13	13
3 福島	0		—					—	0
4 千葉	4		3				1	2	2
5 神奈川	4		0			2	2	—	0
6 甲信	3		3					0	0
7 富山	2		1			1		1	1
8 愛知	21		13		6	1	1	13	0
9 京都	2		1				1	1	1
10 大阪	3		1			1	1		1
11 兵庫	1		1						0
12 鳥取	2		2						1
13 高知	3		1			1	1		0
14 福岡	4		3		1				0
15 南九州・沖縄	3		3					0	0
合計	86	3	56	0	11	5	8	3	30

エコチル調査の展望



お子さん達が13歳になるまで継続してフォローアップしていく本調査は、息の長い取り組みであり、成果の公表には時間を要するが、妊娠、出産、子どもの成長発達に関わる多くの知見が得られて、疾病予防や福祉の向上に寄与できると考えている。

